第１回白馬村図書館等複合施設検討委員会　議事要旨

日時：令和４年３月 31 日(木) 13:30～15:30
場所：白馬村保健福祉ふれあいセンター 学習室

区分	氏名	所属等	出欠
委員	平賀 研也	前県立長野図書館長	○
	冨山 正明	社会教育委員長・図書館協議会委員長	○
	前堀 美緒	しろうま保育園保護者会長	○
	山本 拓真	白馬北小学校 PTA 会長	○
	吉沢 一夫	白馬南小学校長	○
	岩井 良三	白馬村民生児童委員協議会 主任児童委員	○
	藤川 公代	白馬村社会福祉協議会	―
	ワード エミリー	Hakuba International Business Association	―
	中尾 美琴	白馬中学校生徒	○
	田中 悠李	白馬中学校生徒	○
	宮澤 一生	白馬高等学校の生徒	○
	石崎 椋太	白馬高等学校の生徒	○
	北澤 麻希	公募委員	○
	福島 のり子	公募委員	―
	川坂 保宏	公募委員	―
	山口 聡一郎	公募委員	○
事務局	松澤 宏和	生涯学習スポーツ課長	○
	渡邉 宏太	生涯学習スポーツ課 生涯学習係長	○
	松沢 由美子	図書館司書	○
	下川 浩毅	子育て支援課長	○
	松澤 拓哉	子育て支援課 子育て支援係長	○

報道機関：３社（信濃毎日新聞、大糸タイムス、ユーテレ白馬）
傍聴：４名

１．開会

松澤生涯学習スポーツ課長が開会を宣言した。

２．委員の任命

委嘱状を机上配布により交付した。

３．挨拶

（平林教育長）

公私ともに多忙の中、検討委員をお引き受けいただいた皆様に感謝申し上げる。

図書館等複合施設については、平成 31 年 3 月に基本構想を、令和 2 年 3 月に基本計画を策定したが、議会の研究会や住民からの陳情等も含めて、批判的な意見を多くいただいた。

令和 2 年度に実施した官民連携のサウンディング調査の結果も踏まえて、JR 白馬駅への建設は難しいと判断し、基本計画を見直すこととした。

令和 4 年度中に教育委員会にて計画を見直し、村長に提出したいと考えている。図書館が持つ可能性を最大限に発揮し、子育ての諸機能と連携した魅力ある施設整備に向け、委員の皆様のお力添えをお願いしたい。

４．委員自己紹介

（平賀委員）

20 年前に東京から長野県に移住し、伊那市立図書館の館長を経て、一昨年まで県立長野図書館の館長を務めていた。館長退任後は、全国各地の新しい図書館や複合施設の検討に関わっている。他の地域の事例紹介や、皆さんの対話を促進するよう努めたい。

（冨山委員）

当初の「図書館施設検討委員会」から検討に関わらせてもらっている。これまでの検討において、住民の想いと違う方向に話が進んでしまったことを申し訳なく思うが、軌道修正して皆さんの声を聞いてみんなが使いやすい施設ができるよう努めたい。

（山本委員）

多摩市で生まれ育ち、コミュニティセンターのような施設をよく利用していた。PTA 会長という立場で参加しているため、小学生や保護者の視点で意見を伝えていきたい。

（岩井委員）
　今回の複合施設は、子どもたちに関わる部分も多く、民生児童委員の代表として皆さんと一緒に考えていきたい。

（北澤委員）
　高校卒業後に海外に留学してアートデザインを学び、卒業後に東京でテキスタイルデザインの仕事をしていた。現在はデザイン関係の会社を立ち上げ、専門学校で講師も務めている。娘が本好きということもあり、子どもたちにとってどんな施設や機会を創れるか考えていきたい。

（山口委員）
　10 年程前に白馬に移住し、宿泊業に従事してきた。今回の図書館等複合施設は、もちろん白馬村民のための施設でもあり、外から来る方にも利用いただけるような場所になれば新たな魅力になると思う。観光事業者の意見もお聞きして、会議の中で発言していきたい。

（吉沢委員）
　村内の小中学校を代表して、子どもたちにとって望ましい施設ができるよう努めたい。神城の学校に勤めているが、北城で生まれ育った身でもあり、地域住民としての視点も持ちながら考えていきたい。

（前堀委員）
　広島県出身で、結婚を機に白馬に移り住んだ。子育て支援ルームは多く利用させてもらった。子どもたちの放課後の居場所も含めて、周囲の保護者の意見を聞いて伝えていきたい。保育園の保護者会長の任期は 3 月末で終わるが、4 月以降も委員を務めさせていただきたい。

（中尾委員）
　図書館はよく利用している。新しい複合施設が良いものとなるよう考えたい。

（田中委員）
　委員会に貢献できるよう頑張りたい。

（宮澤委員）
　安曇野市に住んでいるが、白馬高校に来てこういったことに携わらせてもらえることになったので、力を添えられるよう努めたい。

（石崎委員）
本が好きなので、図書館に関わる会議に参加できて光栄に思う。

（事務局）
欠席委員について紹介した。

５．委員長・副委員長の専任

事務局より、委員長に冨山委員、副委員長に平賀委員を推薦し、委員の承認を得た。

（冨山委員長）
平賀さんを差し置いて委員長を務めるのは心苦しいが、検討初期から関わってきた地域の人間として務めさせていただきたい。

（平賀副委員長）
中高生も含めて皆さんが話しやすいような場にしていきたい。

６．これまでの検討経過と今後の協議方針

各委員には事前に検討経過を説明済みであるため、資料に基づき簡単に経緯を説明した。

（事務局）
検討委員会で何かを決定したり判断したりするのではなく、様々な視点から意見を出し合い、また広く住民にも説明したり意見を求めたりしながら、令和 4 年度中に基本計画の見直し案を作成し、村長に提出したい。
今後は 2 ヵ月に 1 回程度の検討委員会を開催したいと考えているが、内容については現時点では細かく定めてはいない。状況によって議論の内容や方法を考えながら、進めていきたい。

７．中信地区図書館等複合施設見学ツアーの報告

（冨山委員長）
12 月 14 日（火）に 15 名で塩尻市、安曇野市、池田町、松川村の複合施設を見学した。

参加者の感想が資料として配布されているが、参加した委員から感想を聞かせていただきたい。

（山口委員）
　塩尻市は人口や予算の規模が違うが、街の再開発の中で計画されたということであった。白馬村はスキーブームや長野五輪などで街の姿が変わってきた中で、持続可能性を考えた時に、今このタイミングでお金をかけて新しい施設を作ることだけを考えるのではなく、見学した 4 自治体とは違う形で、自然を活かしながら、既存の施設なども活用することはできないのかという想いも抱いた。

（岩井委員）
　見学ツアーは途中から参加したが、池田町の施設からは白馬村が目指すような「多様な創造性」や「未来へ誘う」といった雰囲気を感じることができた。多くの人が求める、今の時代に合ったコンセプトに基づいて施設をどうすればつくることができるか考えたい。

（下川子育て支援課長）
　どの施設も素晴らしく、白馬村にも同様の施設が欲しいと感じた。
　子育ての視点では、塩尻市のえんぱーくの 1 階の子育て支援センターが多くの親子に使われていたことや、池田町の施設で中学生の放課後の居場所として集まって勉強したり話したりしていることが印象的であった。

（平賀委員）
　長野県内では比較的新しい施設を見ていただいたが、県外にはもっと多様な施設がある。
　池田町と松川村の施設は、ホールと図書館の複合施設という点で類似しているが、少し古い複合施設のあり方となっている。安曇野市の「みらい」はそれにギャラリーが付随している。
　塩尻市は子育て支援・ビジネス支援・民間施設・市民が自由に使えるフリースペースがあるなど、閉じた部屋だけでなく半分開いた空間がたくさんあるという点で、2010 年頃に新たな潮流を創った施設と言える。
　それから時代はさらに先へ進んでいるため、この委員会では白馬村の住民の皆さんが過ごしたい「これからの暮らし」のあり方を話して、一歩先の話をしていきたい。

（冨山委員長）
　塩尻市は空間の使い方が上手く、図書館と子育て支援施設が上手くつながっている。規模は異なるが、表示・掲示の出し方や空間の使い方など白馬村の施設でも参考にできる部分が多いと感じた。

今後、平賀副委員長から他の先進的な事例などもご紹介いただきながら、他の真似をするだけでなく、自分たちの考えをしっかり持って、議論を進めていきたい。

８．交流について

（事務局）

検討委員会では、一人ひとりが考えて率直な意見を述べていくためにも、グループに分かれて対話する機会を何度も設けていきたい。そのために、他の人の意見を否定しない、一人が長く話し過ぎない、遠慮せず素直な意見を言う、の 3 点を意識していただきたい。

白馬村には 40 年以上前に制定された「村民憲章」があるが、それとは別に 10 年ごとに定めている村の「基本理念」があり、現在の基本理念は、「白馬の豊かさとは何か － 多様であることから交流し学びあい成長する村」となっている。白馬村民にとっての豊かさと何かを問い続け、村内外の多様な人々がつながって学び合うことで、変化の激しい時代を乗り越えていこうという想いが込められている。人口は減少し、税収も減っていく中で、主体的に活動する人を増やしていくことで地域の活力を維持していかなければならない。「個の時代」と言われ、人と人との繋がりが希薄化しているが、孤独は健康と幸福に大きな影響を及ぼす危険因子であり、小さな地域だからこそ多くの人が繋がって助け合い支え合いながら生きていく地域でありたい。だからこそ、交流＝人と人との繋がりが重要であると言いながらも、実際にそれを実現するような場所があまりない状況で、人々の出会いや再会を促したり、学びあいの機会を生み出したりするような空間も不足していると思われる。

そこで、複合施設の 2 つの柱として「交流」と「滞在」を掲げていて、今回は「交流」について皆さんで考えていただきたい。

どのような人たちと、どのような内容で、どのような空間・場所で、交流することで、どんな良いことが起きるか、グループに分かれて対話によりそれぞれの想いを共有したり深めたりしてほしい。

（平賀副委員長）

この検討委員会は、何かを決めたり選んだりすることが目的ではなく、事務局の皆さんが基本計画を見直すにあたって、ここでの対話が役に立つようなものになることが目的だということなので、みんなで自由に話しましょう。

そして、対話をするにあたって、私からもう 3 点皆さんにお願いしたい。

1 つ目は、自分ごとを語ること。「こうあるべき」という視点ではなく、日々の暮らしの中でどうなれば自分がワクワクするか、家と学校・職場の往復で固定的な繋がりになりがちですが、どんな交流があれば楽しくなりそうかということを考えていただきたい。

2 つ目は、メニュー選びをしないこと。カフェがほしい、ものづくりができる部屋がほし

いなど、既にあるものを取捨選択するのではなく、なぜそれがほしいのかを考えていただきたい。

3つ目は、膨らませること。一人の意見に対して、周りのみんなが質問して、みんなで

その3点を踏まえた上で、交流＝どんな人（もしくは物や情報）と出会えたら楽しくなりそうか考えてほしい。

次回以降、複合施設でどんな体験をしたいのか、ということも話し合いたい。図書館や子育てといっても、様々な形がある。基本計画をどんな形で見直すべきなのか、みんなで自分ごとを膨らませていくことが大切である。

各委員が 4 つのグループに分かれて、交流について対話し、グループごとに内容を発表した。

・休日に友人と話をしたりカードゲーム・ボードゲームなどをしたりして過ごせる場所があったら嬉しい。
・オンラインでは実現できない繋がりが生まれる場所や機会がほしい。
・住む人・訪れる人に多彩な人が多く、交流しないのはもったいない。一緒に制作物を作ったりすることができれば、一人ひとりの学びにもつながると思う。
・子どもたち同士の中でも、普段と違う学校・学年の子どもたちが一緒に遊べるような機会があると良い。
・昔は放課後、帰宅前に遊ぶことができたが、今は一度帰宅してからでないと遊べず、子どもたちが集まりづらい。多くの人が集まりやすい場所や行き方についても検討が必要。
・白馬らしくアウトドアを活かしながら、白馬の未来を語り合える場所がほしい。
・一人ひとりの得意なことに出会えて、教えてもらえる場所があると良い。
・外国から来た方々と交流して言語や文化を教えてほしい。
・気軽に立ち寄ることができて、伝言板のような形式で人々が繋がりやすい仕組みを設けたい。
・白馬に暮らすことの価値を楽しめるような場所にしたい。
・自分のためにも、子どもたちの未来のためにもなるような機会と空間があると良い。
・普段接することがあまりない高齢者や外国人と、身構えず気軽に交流してみたい。
・コロナ禍で人と会う機会が減ってしまい、誰とでも良いから会って話がしたい。
・目的があって訪れるのも良いが、「何も用事がないから行く」という場所であっても良い。

（平賀副委員長）

みんなが求める機能をあれこれ盛り込んでいくと、複合施設の規模がどんどん大きくなってしまう。今後、それぞれの機能をどのように重ね合って融合していくか、自由な空間を

どうつくっていくかということも考える必要がある。
　施設を建設するための議論ではあるが、今日皆さんが口にしたことはそれぞれの願いでもある。言いっ放しで終わるのではなく、施設ができたら自分ごととして実現してほしい。
　今後、どんなテーマ・切り口で議論していくのが良いか、委員からも提案を受けたい。基本計画の見直しにあたり、話しておくべき内容をそれぞれ考えてもらいたい。

９．閉会

　松澤生涯学習スポーツ課長が閉会を宣言した。